

平成 25 年 10 月 17 日

## 10 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は作業道の補修も済み、伐採・搬出作業ともに急ピッチで進んでいる。秋の特別市に向け、高齢級材の入荷が増加し、平年水準近くまで回復。好調な製品の荷動きに伴い、原木の不足感が続き、スギは柱材の引合が依然好調、中目材も急速に強まる。ヒノキは柱材・土台取りの不足感が強まり、中目材も引続き好調。大型製材工場の受注が好調で、原木の手当が逼迫、スギ価格は柱材が先行し中目材も高騰。ヒノキは柱材・土台取りが急騰、中目材も強含みで推移。群馬の製材工場の操業状況はほぼフル操業。原木の入荷はスギ、ヒノキ、カラマツともに供給量少なく厳しい。特に、スギ 3m は他県へ、カラマツ 4m は合板の買い意欲強烈。製品の販売は好調。原木価格高騰により、製品価格へ転嫁急務だが厳しい状況。県単補助は 70%消化。利用ポイントは少しずつ申込みが増加。

### 2. 米材

8 月の米国新設住宅着工は前月比 0.9%増の年率 89.1 万戸。米国丸太は、米国内の丸太相場の回復と中国の買いが回復し、3 ヶ月連続下降した相場は一先ず終焉した模様。IS クラス以上は前月比保合だがローグレード材は強含み。カナダ丸太はセカンドが強保合、オールドは先月同様無いもの高。産地の港頭在庫は、入出荷のバランス良く先月末と同水準。ウェアハウザー社の 10 月積み米マツ IS ソートは、前月価格据え置きで推定 830 \$。米材丸太の入・出荷、在庫とも横這。国内大型港湾製材工場の 10 月の荷動は KD 主体に堅調。内陸部製材工場の荷動は、グリーン材主体のため冴えず。米製材品の TLT(東京木材埠頭) 9 月入荷量は 35.3 千 m<sup>3</sup>で、前月比 9.2%減。出荷量は 36.0 千 m<sup>3</sup>で同 4.5%増、在庫量は同 0.9%減。産地情勢は輸出用丸太が引続き順調で、DF/HEM の現地製材工場向け丸太の需給バランスはとれているが、各樹種ともハイグレード材は少なめ。SPF の J グレードの 4QTR は \$ 10/千 BM 程度の下げ。荷動き・先行きは、全体的に鈍く、各流通段階での在庫がまだ多い状況。9 月以降の仕入を控え、11 月後半から年末にかけて在庫整理はつく見通し。9 月は仮決算のところが多く、安値も聞かれたが、10 月以降は入荷量を見ながら安定した居所になる可能性。

### 3. 南洋材

サバは、天候不順で出材少ないまま横這続く。良質な太材少なく価格も横這。製材品は比国や中東市場が比較的順調なため、多くの低級品がそちらに流れており、二等材は高止まり。一等材は欧州市場の不況が続いているため日本向け価格は保合が続く。サラワクは輸出状況に大きな変化無く、合板向け数量は徐々に増加し、価格も上げに転じる気配。製材品は一部の第三国市場が上向しているため値下がりはなく保合。PNG・ソロモンは全体に引合い少く、原木・製品共に低迷。南洋材丸太の入・出荷、在庫とも横這。原木の販売は合板用、製材用とも変化なし。製材品、特にメルクシパイン等インドネシア集成材は、先月同様に現地価格が高騰のまま変わらず、日本側と価格交渉続く。ラワン等の平割、デッキ用材は比較的堅調。

### 4. 北洋材

ロシア極東は8月の大雨の影響でアムール川の水位が上がり、一部冠水被害のため10月配船は例年より少なくなる模様。日・中からのオーダーは順調に入っているが、シーズン終了までに配船が完遂できるか微妙な状況。シベリア材は夏季の配船が皆無で、伐採開始は10月以降、配船は早くとも12月以降。富山新港の9月丸太入荷量は4千 $m^3$ （エゾマツ0、カラマツ1.7千 $m^3$ 、アカマツ2.3千 $m^3$ ）、製品は7千 $m^3$ 。価格動向は、丸太は横這い、アカマツ現地挽き完成品は動き低調で価格弱含み。荷動は丸太、製材品とも低調。在庫状況は1.5ヶ月位。国内製材工場はエゾマツ、アカマツ、原板とも不採算。稼動状況は採算合わず生産調整。

### 5. 合板

原料丸太のうち国産材は、針葉樹合板の高水準の生産状況から強含み。南洋材も現地のコスト事情から強含み。米材は現地の好調な住宅着工により強気な状況。8月の国内合板生産量23.0万 $m^3$ のうち、針葉樹合板は21.4万 $m^3$ で、出荷量は21.3万 $m^3$ と生産量、出荷量共8月としてはかなり高水準。在庫量は14.1万 $m^3$ で依然低水準。販売価格は、全体的な出荷量は依然好調をキープしているものの、木建ルートではメーカー価格は上がっても問屋の再販価格は伸びず、一部乱れている状況。国産針葉樹合板の相場に変化はないが、依然直需向けの出荷が好調。輸入合板の荷動きは回復傾向だが、これは商社の中間決算で一部安値が出回ったため。先行き針葉樹合板は、全体に出荷が順調な中で長尺物の生産が少く、すでに不足状態から今後注視の必要。輸入合板は港頭在庫が一杯の状態が続くものの、今後の入荷減が確実なことから在庫調整が進む。8月の輸

入合板入荷量は 28.5 万 m<sup>3</sup> で、うち 12mm 中心のマレーシアからは 10.9 万 m<sup>3</sup> と低水準。

## 6. 構造用集成材

原料ラミナは順調に入荷。日本着価格は上昇中、10・11 月にかけて今季最高値の入港予定。次期 4QTR は現在交渉中だが、下げの要請に対して横這のオファー。国産集成材の受注は、柱は横這で、梁桁は上向き。販売の荷動き・先行きは良好で年内は忙しい。在庫は柱は多めで梁桁は横這。輸入集成材は国内在庫調整のため、柱・桁ともに契約激減。11 月にかけては国内市場で中断面の品薄感が出てくる。7-8 月の大手メーカーの受注は、対前年同月比で 2 ケタの伸びとなっており好調を維持。プレカット工場も忙しいが、今年前半の仮需により在庫は多く、荷動きは盛り上がり欠ける状況。

## 7. 市売問屋

国産材の構造材は、スギ柱角が期待したほどではないがまずは堅調な荷動き。造作材は、スギ、ヒノキ共にリフォーム用で依然小動きがある。外材の構造材は、ベイマツの梁材に動きがあり、見積物件の成約がポツポツ見られる。造作材はスプルー ス良材の建具用の入荷が更に細くなり、値も高く引合いが多いものの対応に苦慮。市場の来場者は徐々に増加傾向にあるが、買方の反応は鈍い状況。消費税増税による駆け込み需要も中小零細企業には影響が薄いようだ。

## 8. 小売

国産材の構造材はスギ KD 柱、小割、板割、ヒノキ KD 柱、土台いずれも保合。外材はロシアアカマツ KD 野縁、ベイツガ KD 角、平割り、SPF いずれも保合、WW 間柱弱保合。造作材はスプルー ス、ピーラー平割保合。RW 集成材は梁、柱とも保合、WW は弱保合。合板は針葉樹、ラワンとも保合。プレカット工場の動向は、構造計算を要する物件は遅延、一部の加工工場で多少納期延長があるも順調。工務店の仕事は幾分回復してきているが、偏りが見られる。来年 3 月までの仕事に期待。

10月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	↗	↘
北洋材	丸太	↘	→	↘
南洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→		

矢印の表示は本月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	↗
			スギ中丸太(3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材(3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ柱(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギ間柱 10.5×3.0×3m 特等	→
		スギタルキ3.0×4.0×4m	→	
		ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→	
		ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→	
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ カスケード(カナダ産)	→
			米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8'' 13'	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (東京問屋着値)	エゾマツ(3.0×4.0×3.8m) 特等	↘
			アカマツ(3.0×4.0×4m) 特等	↘
			カラマツ(10.5×10.5×4m) 特等	※
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	〃	スギ 無化粧 10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→